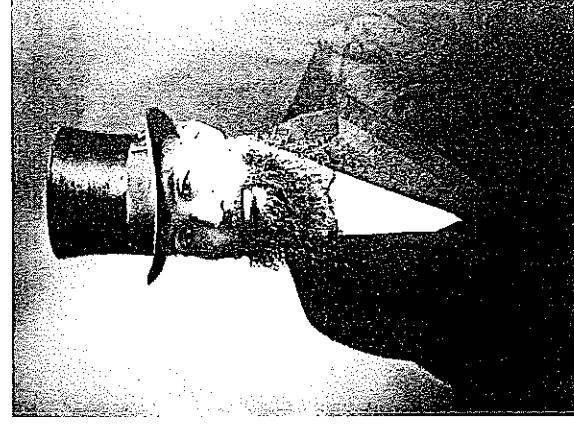


令和4年度 作新学院中等部同窓会総会資料



創立者 船田兵吾

時代の返還を超えて変わらぬ教育の理念

活気溢れる創造性豊かな愛の精神を養う。
学問を尊重し、自学自習にいそしむ気風を養う。
誠実勤勞の習慣を身につける。

教育方針

一校一家

自学自習

誠実勤労

作新学院歌

作詞 石濱 恒夫
作曲 外山 雄三

一 光り満ちたり渥しなき
知恵の流れにいそしみて
はぐくむつばきひたすらに
若きころのあこがれや
作新の風吹きおこる
われらが愛の学院に

二 望み溢るるためみなき
月日の野辺に花摘みて
久遠の恋を指きせば
若きいのちの夢多し
作新の風吹くところ
われらが愛の学院に

三 東西の星限りなく
連なる嶺やここかしこ
道なき道も手を組みて
若きちからのすすむなる
作新の風吹きそよぐ
われらが愛の学院に

令和4年度 作新学院中等部同窓会総会資料

- 1 議事
 - (1) 第1号議案 令和3年度中等部同窓会事業報告
 - (2) 第2号議案 令和3年度中等部同窓会会計決算報告
 - (3) 会計監査報告
 - (4) 第3号議案 令和4年度中等部同窓会事業(案)審議
 - (5) 第4号議案 令和4年度中等部同窓会役員について
 - (6) その他

(1) 第1号議案

令和3年度 同窓会事業報告

令和3年5月17日(月) 同窓会役員会(於:霧降 山のレストラン) 中止

- ・令和元年度同窓会事業報告
- ・令和元年度同窓会会計決算報告
- ・同窓会総会の持ち方について
- ・同窓会報誌(第12号)発刊について
- ・その他

7月3日(土) 同窓会総会(於:宇都宮東武ホテルグランデ) 中止

- ・令和元年度同窓会事業報告
- ・令和元年度同窓会会計決算報告
- ・会計監査報告
- ・令和2年度同窓会事業(案)審議
- ・同窓会役員について
- ・その他

令和4年3月9日(水) 同窓会入会式(於:小中体育館2階)

- ・令和元年度同窓会年次役員・クラス役員紹介

※新型コロナウイルス感染症状況の拡大により上記の通り中止となりました。
報告内容につきましては、中等部HPに掲載し承認頂きましたことをご承知お
き願います。

令和3年度 同窓会会計決算報告

1	収入総額	2,798,469円
2	支出総額	170,660円
3	差引残額	2,627,809円

1 収入の部2,799,469円

費目	金額	摘 要
1 前年度繰越金	2,303,450	
2 会 費	495,000	2021年度卒業生 3,000円×165名
3 広告協賛金		
4 利 子	19	
合 計	2,798,469	

2 支出の部170,660円

費目	金額	摘 要
1 「総会」開催費	22,000	「総会資料」印刷費 22,000円
2 会報誌印刷費		
3 広告費	48,000	下野新聞広告(甲子園出場) 33,000円 作新の風広告費 15,000円
4 通信連絡費		
5 会議費		
6 事務局費		
		御祝 100,000円
		事務用品代 660円
7 雑費	100,660	
合 計	170,660	

3 残高の部2,627,809円

残高は次年度へ繰り越します。

上記の通り決算報告いたします。

令和4年3月31日

(3) 会計監査報告

本会計を監査した結果、帳簿・書証書類もそろい、誤りのないことを認めます。

中等部同窓会会計監査

中等部同窓会会計

猪瀬 元浩
吉野 早織

坂本 忠志
安食 滋良



(4) 第3号議案

令和4年度 中等部同窓会事業 (案)

令和4年5月16日 (月) 同窓会役員会

7月 2日 (土) 同窓会総会・懇親会

令和5年3月10日 (金) 同窓会入会式 (小・中体育館)

※諸般の事情により変更もあり得ますので随時、中等部HPでご確認願います。

その他

作新学院中等部同窓会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は作新学院中等部同窓会と称する。
- 第2条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて母校の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会は事務局を作新学院中等部内に置く。

第2章 組 織

- 第4条 本会は原則として作新学院中等部の卒業生を会員とし、教職員及び教職員であつた者を特別会員とする。

第5条 本会に次の役員を置く。

会長 1名 副会長 3名 理事 若干名 会計監査 2名

- 第6条 本会に顧問を置く。顧問は学院長及び部長のほか、役員会の推薦により会長が委嘱する。

第7条 本会に年次役員と幹事を置く。

卒業年度ごとに各組2名の年次役員を互選する。幹事は年次役員の中から2名を会長が委嘱する。

第8条 会長、副会長及び会計監査は総会で会員の中から選出する。

第9条 理事は幹事の中から会長が委嘱する。会長は理事を委嘱した場合は総会の承認を受けるものとする。

第10条 本会に書記2名、会計2名を置く。書記・会計は理事の中から会長が委嘱する。

第11条 本会は会員の居住する地区、あるいは勤務する職場に、必要に応じて支部を置くことができる。支部役員は支部ごとに定めるものとする。各支部は支部役員及び支部会員の名簿を事務局に提出し、異動あるごとに報告するものとする。

第3章 職 務

第12条 会長は本会を代表し、会務を総理する。

副会長は会長を補佐し、また会長に事故等がある時はその職務を代行する。

理事は会長、副会長に協力して会務執行にあたる。

幹事は役員に協力して事業の企画運営に当たる。

年次役員は本会事業が円滑に行われるように会務に協力する。

顧問は会務などで助言することができる。

第13条 役員の内任は2年とする。ただし再任は妨げない。

第4章 会議

第14条 本会は毎年1回総会を開き、事業及び会計の審議をする。なお必要に応じて臨時総会を開くことができる。

第15条 会長は、随時役員会及び幹事会を開くことができる。役員会の決議は出席議員の過半数の同意によって成立する。

第5章 事業

第16条 本会は第2条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1 会員名簿の作成
- 2 会報の発行
- 3 その他必要と認められる事項

第6章 会計

第17条 本会の経費は入会金及び寄付金などをもってあてる。

入会金は3,000円とする。

第18条 前条に定める入会金は、卒業時に徴集するものとする。

第19条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第7章 決議

第20条 本会則は総会の決議を経て改正することができる。

附則

本会則は平成18年 9月30日から施行する。

本会則は平成23年 6月 4日から施行する。

本会則は平成26年 6月21日から施行する。

中等部沿革史

(作新学院百年史・百年史を参照)

昭22年 (1947)	戦後の学制改革により、中等部発足。初代中等部長に原次郎が就任。校舎は現在の高等部美術デザイン科の兵舎を使用。県内各地から優秀な生徒が殺到して宇高・宇女高への進学は、他の中学校を圧する合格率を誇る。学級数5クラス、自治会活動が自主的に行われ、臨海学校、体育祭等も盛ん。
昭24年 (1949)	中等部長に富田彬、教務主任に添田武が就任。学級数は14クラス、教職員23人。課外活動が盛んになり、県下マラソン大会で優勝した。卒業生の進路状況は、半数が宇高・宇女高等の公立高校へ進み、半数が高等部へ進学。
昭25年 (1950)	中等部長に倉本雄三郎、教務主任に片山陸郎が就任。学級数は11クラス、教職員24人。校舎は現在の女子部分館と女子部体育館西側花壇の所にあった校舎(焼失)を使用。宗教教育としてモーニングデポジション(朝の祈り)がアン=クロエーカー、ジェーン=ラッタ両教師によって行われ、外国人教師による英語教育の授業が開始。
昭26年 (1951)	中等部長に杉山千富が就任。
昭29年 (1954)	副院長船田小常の発案により、クリスマス祝会、花の日訪問、感謝祭の行事を開始。
昭35年 (1960)	中等部長に船田譲、教頭に渡辺守が就任。新たな教育目標として「生徒に主体性を持たせ、創造性豊かな人間育成を目ざすこと」を打ち出し、学習指導要領も工夫。さらに中・高一貫教育を発足させた。学級数6クラス、生徒数233人。課外活動が活発で、マラソン大会(山崎街道)、スキー実習(鶏頂山)スケート実習等の実施。
昭37年 (1962)	松本邦正が教務主任に就任。この年は高等部が硬式野球で全国制覇を成し遂げた年であり、中等部でも中高一貫教育制度の功を上げるべく、生徒一人ひとりの個性を生かした少数精鋭主義によるきめ細かな指導が施され、生徒は受験による精神的圧迫を受けない、安定した学院生活が送れた。また、船田小常の要望により、小学部、中等部合同の行事が多くなる。
昭39年 (1964)	アン=クロエーカーが教務主任に就任。英語と宗教教育に力を入れる。
昭40年 (1965)	本田貞晴が教務主任に就任。校舎は女子部2号館に付設した木造平屋建てを使用し、礼儀作法に力を入れる。
昭43年 (1968)	松井美枝子が教頭に就任。3号館が竣工し、小・中等部が併用する。
昭44年 (1969)	佐々木守可が教務主任に就任。
昭45年 (1970)	野沢慶次郎が教務主任に就任。生徒全員による朝の竹刀体操を始める。スキー実習(日光湯元・2泊3日)、長距離走大会(校内)、林間学校(2泊3日)、修学旅行(関西方面・3泊4日)等が実施された。

昭50年 (1975)	中等部長に船田昌子が就任。隆盛時代の中等部に戻すべく、教育目標、教科課程等について真摯な会議を重ねられる。
昭52年 (1977)	中等部から公立高校受験可の制度に改める。
昭58年 (1983)	新生中等部第1期生を募集。様々な困難の中、各方面の理解や協力が得られ、優秀な生徒達が集まり、英進コース42人、進学コース27人が第1期生。教頭に篠木明が就任。小・中体育館竣工、中央館竣工、中等部は中央館に移転する。主要5教科の時間を増やし、英才教育を開始する。男子制服も詰襟の学生服から紺のブレザーに代わる。
昭60年 (1985)	創立100周年を迎え、新生中等部が1年生から3年生まで揃い、生徒数も4年前の2倍となる。生徒は揃って優秀であり、しかも明るく、活発で、良さライバル同士の集まりとして、勉学・部活動に大いに活躍。
昭61年 (1986)	副院長・中等部長を務めた船田昌子が学院長に就任。中等部長に教頭の篠木明が就任。
昭62年 (1987)	毎年の入学生増加と大学進学の結果をより一層高めるため、従来の英進科を母体として、新たに独立の英進部創設のため、新しい中等部校舎を小・中体育館南側への建設が決まり、9月9日に起工式、工事は順調に進行
昭63年 (1988)	4月、待望の独立新教棟が完成。正面玄関脇の御影石定礎に「昭和63年4月竣工・作新学院院長船田昌子・船田元文部政務次官就任記念」の文字が刻まれている。この校舎（現校舎）は鉄筋コンクリート4階建て、面積3,035㎡。普通教室15、理科室2、視聴覚室、技術室、家庭科室、音楽室、美術室、書道室、図書室、LL教室、カウンセラー室等その他、配膳室、配膳用エレベーターも備え、職員室、会議室、部長室も設置。各教室・特別教室に冷暖房が完備された。屋上には三角形でトンガリ帽子風の時計塔を設置され、斬新な外観を呈している。この年から進学コースを英進コースに統合し、募集定員を90名とした。教務主任の野澤慶次郎が教頭に就任。高校に英進部が発足、中・高一貫教育の本格的な検討が進められる。
平成2年 (1990)	中等部卒業生21名が第1回英進部英進科中・高一貫コースに進学。皆、勉学意欲旺盛で高校卒業時には、筑波大・新潟大・山形大・独協医大等に全員大合格を果たす。
平成4年 (1992)	中等部募集定員を90名から英進コース120名と変更し、現在に至っている。海老原映江が教務主任に就任。
平成5年 (1993)	英進部教頭の穂積司朗が中等部長に就任。情報機器教室を中心とする多目的教棟（中等部校舎南側鉄筋コンクリート3階建・面積613㎡）起工式を1月8日実施。女子制服にキュロット・ベスト2組とセーターの自由な組合せを追加。
平成6年 (1994)	9月1日に8ヶ月の工期を経て、多目的教棟竣工式。1階に大会議室と教育相談室、2階にコンピュータ教室、3階には授業や懇談、研究発表など広く生徒中心のオープンスペースが新設される。
平成7年 (1995)	教頭に教務主任の海老原映江、教務主任に高等部教諭の山田一雄が就任。
平成9年 (1997)	第1、第2理科室実験台修繕。AV、LAN設備。

平成10年 (1998)	柔道部廃部。サッカー部新設。音楽部から吹奏楽部に変更。家庭科室調理台取替え。
平成11年 (1999)	部長に英進部教頭の阿久津純男、教務主任に高等部教諭の樽林一三が就任。
平成12年 (2000)	合唱コンクール会場が小中体育館から栃木県教育会館に変更。体育着・ガパン・体育館シューズのデザインを変更。給食用食器のホリプロからアジパルに変更。
平成13年 (2001)	全教室を冷暖房完備。生徒会室を4階に移転。
平成14年 (2002)	生徒の携帯電話使用を許可制にする。
平成15年 (2003)	中等部長に堀江昌子、教頭に樽林一三、教務主任に齋藤辰雄が就任。「知育」「德育」「体育」に「食育」を加え、配膳室に大型冷蔵庫設置、給食衣着用、箸・スプーン・フォークを新規購入、学年別保護者会を実施。運動会で「よさこいソーラン」を披露。「フォーラム in 足尾」「足尾銅山に植樹」に参加。
平成16年 (2004)	修学旅行で作成した友禅染法被を着用して、運動会で「よさこいソーラン」を披露。国・数・英の3教科に少人数指導、IT授業導入。トイレ・洗面所を全自動化。保護者対象に給食試食会を実施。
平成17年 (2005)	作新学院創立120周年記念行事として記念式典、「由紀さおり・安田祥子手づくり学校コンサート2005」(県教育会館)、「渡辺貞夫音楽の旅」(総合体育館)、「作新展」(東武宇都宮百貨店)を実施。全館内部塗装替え修繕。1~4階廊下階段床張替修繕。アクティブホール照明改修。視聴覚室改装。校医・薬剤師・養護教諭・栄養士等を委員とする学校給食委員会を新設。
平成18年 (2006)	2学期制の実施。年間指導・学習計画書の「シラバス集」の作成。全館外部塗装替え修繕。女子制服用リボン変更。テレビ電話を使用した「遠隔食育授業」を実施し、テレビ・新聞等に大きく取り上げられる。中等部創立60周年を記念し、9月30日に設立総会を開催し、中等部同窓会が正式に発足。同窓会長に宇井肇氏が就任。理事・幹事等の役員も選出される。
平成19年 (2007)	「食育」学習の一環として、1年生全員による農業体験学習が実施される。6月2日中等部同窓会第1回総会が作新学院聴蛙館3階で開催される。
平成20年 (2008)	中等部募集定員を120名から180名に変更。中等部長に英進部教務主任の高橋京子が就任。
平成21年 (2009)	小・中等部食堂棟、起工式を9月28日、竣工式を3月1日実施。
平成22年 (2010)	従来の上品なイメージを残しつつ、新入生より新制服となる。修学旅行先に広島が加わる。全学年6クラス(学級数18クラス)になる。
平成23年 (2011)	教務主任に直覚龍郎が就任。 「オール作新」による東日本大震災支援活動を開始。
平成24年 (2012)	部長に小学部長の上野栄一、教務主任に宮崎洋昭が就任。3学期制・新教育課程完全実施。卒業生(英進部3年)萩野公介がロンドンオリンピック競泳(400m個人メドレー)で銅メダル獲得。

平成25年 (2013)	「オール作新」による東日本大震災支援活動の一環として2学年の宿泊学習において石巻・南三陸町・気仙沼を訪れ震災学習を行う。 小中第2グラウンド完成。
平成26年 (2014)	副部長に宮崎洋昭、学務主任に直籠龍郎・荒川良一が就任。 震災学習として1学年宿泊学習が長野方面から裏磐梯に戻り、3学年の修学旅行に神戸が新たに加わる。女子バレー部陸部。演劇部・調理部新設。
平成27年 (2015)	作新学院創立130周年記念事業として震災学習をテーマに河北新報社・神戸新聞社・福島民報の各協賛でパネル写真展を開催。
平成28年 (2016)	作新学院創立130周年記念棟「作新アカデミア・ラボ」着工。 中等部パンコン室が全面リニューアル。 卒業生(小・中等部)植崎智亜がボリダリング世界選手権で日本人初の優勝。
平成29年 (2017)	中等部創立70周年記念式典及び記念事業として震災学習をテーマに佐藤敏郎氏による記念講演及び河北新報社・神戸新聞社・福島民報3社協賛による写真展を開催。 作新学院創立130周年記念棟「作新アカデミア・ラボ」完成。
平成30年 (2018)	学務主任に嘉久和泉が就任。 グローバル化を背景に実用的な英語運用能力を定着させるため英語検定試験の全員受験を推進。
令和元年 (2019)	平成31年度入学試験の志願者数が過去最高となる613名になる。 小中体育館トイレが全面リニューアル。 2年布施谷りのが国際バレーコンクールで第1位に輝く。 「第3回ヨーロッパピアンバレエグランプリ」
令和2年 (2020)	卒業生植崎智亜がボリダリングで東京五輪代表内定。 新型コロナウイルスによる休業期間中、オンライン授業開始。 バーチャル作新祭の予定。
令和3年 (2021)	教務主任に佐藤裕子が就任。 植崎智亜(ボリダリング)・萩野公介(競泳)・榎本遼香(飛び込み)の中等部卒業生3名が東京五輪代表内定の偉業達成。 英語・数学において習熟度別授業の完全実施。
令和4年 (2022)	教務主任に山田有二が就任。 卒業生橋本拓也(筑波大学宇宙史研究センター助教)が令和3年度文部科学大臣若手科学者賞受賞。

中等部卒業生総数

回	年度	卒業生徒数	38	59	37
1	昭和22年度	218	39	60	66
2	23	494	40	61	66
3	24	388	41	62	99
4	25	289	42	63	113
5	26	206	43	平成元年度	147
6	27	198	44	2	104
7	28	91	45	3	126
8	29	100	46	4	151
9	30	122	47	5	149
10	31	159	48	6	141
11	32	128	49	7	128
12	33	136	50	8	146
13	34	114	51	9	152
14	35	54	52	10	128
15	36	92	53	11	127
16	37	156	54	12	130
17	38	128	55	13	137
18	39	68	56	14	143
19	40	54	57	15	144
20	41	26	58	16	149
21	42	42	59	17	145
22	43	26	60	18	156
23	44	32	61	19	147
24	45	26	62	20	159
25	46	30	63	21	138
26	47	30	64	22	171
27	48	44	65	23	161
28	49	29	66	24	177
29	50	38	67	25	148
30	51	26	68	26	144
31	52	29	69	27	174
32	53	28	70	28	145
33	54	23	71	29	147
34	55	26	72	30	138
35	56	21	73	令和元年度	136
36	57	27	74	令和2年度	165
37	58	35	75	令和3年度	165

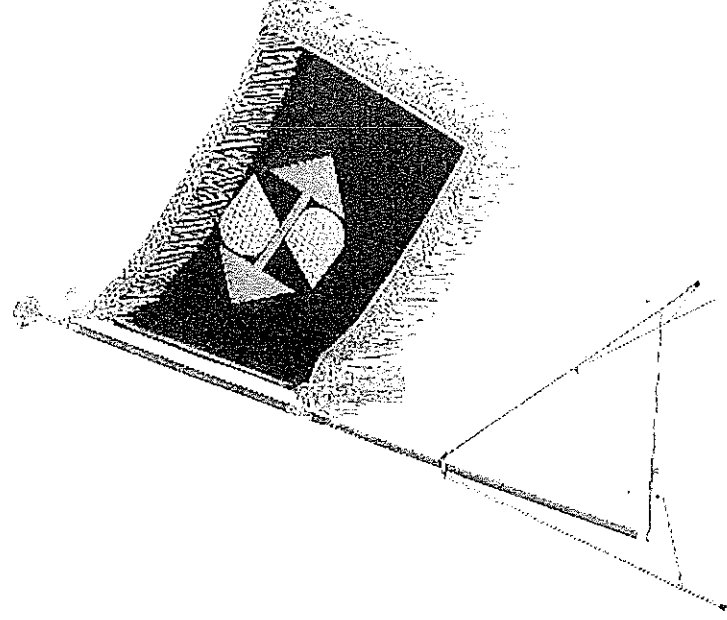
中等部卒業生総合計

8,932名

中等部同窓会入会者総数

回	卒業年度	同窓会入会者数	38	59	17
1	昭和22年度	32	39	60	5
2	23	3	40	61	11
3	24	7	41	62	5
4	25	20	42	63	12
5	26	0	43	平成元年度	6
6	27	1	44	2	28
7	28	12	45	3	16
8	29	13	46	4	1
9	30	14	47	5	2
10	31	1	48	6	1
11	32	0	49	7	3
12	33	24	50	8	7
13	34	11	51	9	23
14	35	3	52	10	29
15	36	5	53	11	4
16	37	7	54	12	7
17	38	19	55	13	47
18	39	1	56	14	37
19	40	3	57	15	41
20	41	1	58	16	94
21	42	1	59	17	81
22	43	3	60	18	156
23	44	0	61	19	147
24	45	1	62	20	159
25	46	7	63	21	138
26	47	2	64	22	171
27	48	0	65	23	161
28	49	1	66	24	177
29	50	4	67	25	148
30	51	1	68	26	144
31	52	0	69	27	174
32	53	2	70	28	145
33	54	1	71	29	147
34	55	4	72	30	138
35	56	4	73	令和元年度	136
36	57	7	74	2	165
37	85	14	75	3	165

中等部同窓会入会者 合 計	3, 100名
------------------	---------



校 旗

[昭和27年4月校章制定]